

TEAM  
EXPO  
2025

ささえる。みんなで。  
“共創パートナー”

TEAM  
EXPO  
2025

いどもう。みらいに。  
“共創チャレンジ”

2025 年 4 月 13 日より大阪市臨海部の夢洲で日本国際博覧会（大阪・関西万博）が「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに半年間開催されます。自然遊学館では TEAM EXPO 2025 のプログラムへ参加、共創パートナーとして南大阪での生物環境調査のリソースの提供、共創チャレンジとして大阪湾や貝塚の里山の保全・再生・創出につながるプログラムを継続的に実施していきます。

## 2 月 3 月の行事案内

|              |                                                                                                                      |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 月 1 日 (土)  | ノリすき体験 西鳥取漁港(鳥取ノ荘) (実費 500 円)(受付 1/13~1/26)                                                                          |
| 2 月 8 日 (土)  | 二色の浜の漂着物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)                                                                                        |
| 2 月 9 日 (日)  | 自然生態園作業と生物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)                                                                                      |
| 2 月 22 日 (土) | せんごくの杜 & 近木川河口バードウォッチング (受付 2/1~2/16)                                                                                |
| 3 月 1 日 (土)  | 二色の浜の漂着物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)                                                                                        |
| 3 月 9 日 (日)  | 自然生態園作業と生物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)                                                                                      |
| 3 月 20 日 (木) | 自然遊学館研究報告会 (令和から昭和世代までが集まり、日頃の調査の結果などを発表します、ご興味のある方は是非お越しください)                                                       |
| 3 月 29 日 (土) | 水生昆虫を調べよう! 蕎原周辺のため池 (受付 3/8~3/23)                                                                                    |
| 3 月 30 日 (日) | 「帆船で大阪湾のスナメリ探し」<br>貝塚港から「帆船ブルーオーシャンみらいへ」体験航海<br>貝塚市より詳しい案内が出されます。広報や貝塚市のホームページをご覧ください。 【主催:貝塚地域ブランド推進協議会 企画協力 自然遊学館】 |

メールで申込の際は、住所(町名まで番地以下は不要です)参加される方の全員のお名前・年齢をご記入いただき、shizen.desk@icloud.com (このページの下に QR コードがあります)までお願いします。抽選による参加の可否につきましては、締め切り後の抽選の結果を代表の方にお知らせします。

Instagram



YouTube



行事申込メール



Facebook



ホームページ



貝塚市立自然遊学館(登録博物館)

〒597-0091

大阪府貝塚市二色 3 丁目 26-1

TEL:072-431-8457

ISSN 2185-9817

# 自然遊学館だより

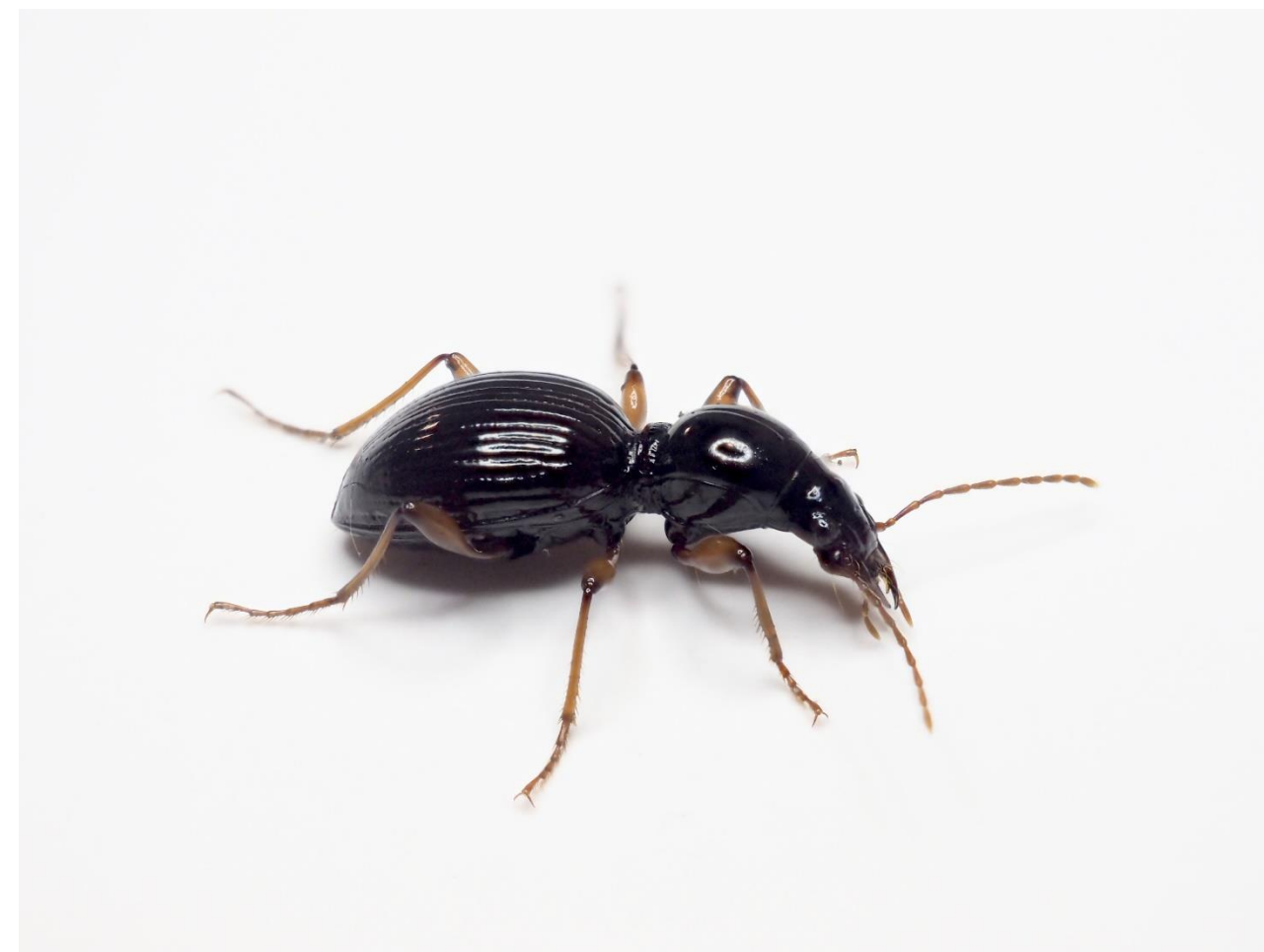
Vol.112



JAPAN MUSEUM

登録博物館

2025.2

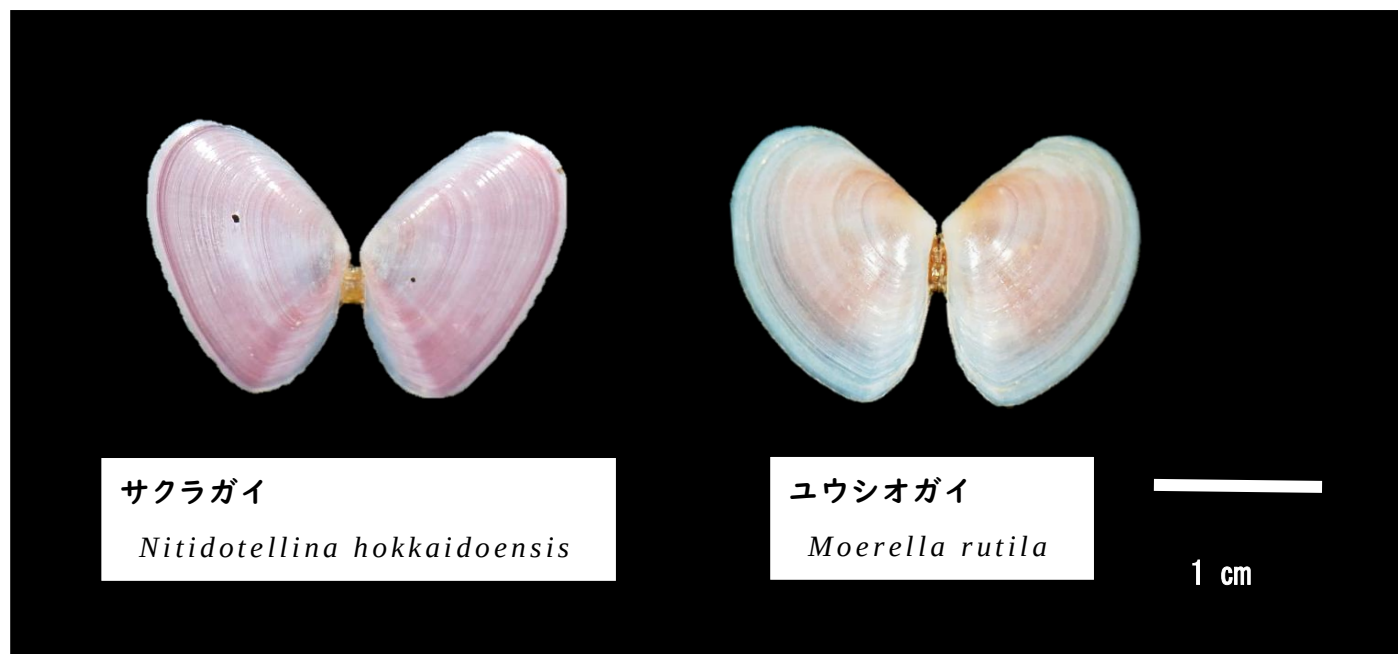


ミヤマヒサゴゴミムシ *Broscosoma doenitzi*

日本固有種で、本州・四国・九州から知られています。2024 年 11 月 9 日蕎原の比較的標高の高い(標高 600m 弱)川沿いの場所にあった倒木の樹皮下から採集しました。その名の通り、ひょうたん型の非常に特異な体形をした小型のゴミムシです。瓢箪の古い呼び名が何とも言えずよいものです。山地性で、冷涼かつ湿った環境を好むようで、今回採集した場所はまさにその通りでした。後翅は退化しており、地域的にかなり形態的な変化の幅があり、分布の両極では別種のように見えるともいわれています。

本種はこれまで自然遊学館には標本が所蔵されておらず、1983 年 10 月 30 日に同産地で採集された標本が橿原市昆虫館にも所蔵されていました。比較的見つけにくい種であると考えられます。





## 二色の浜で拾えるピンク色の貝殻

毎年、冬場に行うイベントに打上げ貝拾いがあります。この時期は北西風が強く吹き、海底の貝殻や、海洋生物が多く浜辺に打上げられます。アサリの貝殻が最も多いのですが、人気ナンバーワンといってもいいのが、ピンク色がきれいなサクラガイです。じつはこのサクラガイに色、形がそっくりなユウシオガイという貝殻も拾うことができます。同じニッコウガイ科に属し、サクラガイより殻がやや厚く、殻の形は卵型で後端が少し尖っています。



図 1



図 2

## 端脚目カマキリヨコエビ科ホソツツムシ属の一種

2024 年 6 月 29 日、市民の方が二色の浜の波打ち際で採集したアナアオサなどの海藻などを持ってこられたのですが、そのバケツの中に 1 cm にも満たない細長い円筒状のものがかすかに動いているのを偶然見つけました。観察してみると筒の穴から脚のようなものを出しては引っ込めていました。(図 1)何の生物だろうとの興味心から、筒を割いて中の生物を取り出してみました。正体はヨコエビの仲間、カマキリヨコエビ科のホソツツムシ属の一種でした。(図 2)脚のように見えていたのは 2 対の触角で、細長い筒はこのヨコエビ自らが分泌した液で合成された糸で作った巣だったのです。



## チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

ハヤブサ科に属する小型の猛禽類で、日本では主に冬鳥として見られることが多いですが、一部が留鳥として国内でも繁殖しています。その名前は、「長元坊」という僧侶の姿に由来し、その俊敏で優雅な飛翔姿が仏教の修行僧に例えられたとも言われています。

全長は約 30～40cm、翼を広げると 70～80cm ほどになります。オスは背中が赤褐色で黒い斑点があり、頭部は青灰色をしています。一方、メスは全体的に褐色で、オスより地味な色合いです。チョウゲンボウの特徴的な行動のひとつに「ホバリング」と呼ばれる飛び方があります。獲物を探す際、空中で羽ばたいて一定の位置に留まることができるこの技術は、彼らの優れた狩猟能力を物語っています。

主に小型の哺乳類や昆虫、トカゲなどを捕食し、田畑や草原、都市部の公園などで見られることが多いです。繁殖期には木の穴や崖に巣を作りますが、近年は都市の環境にも適応し、高層ビルの屋上や橋脚の隙間に巣を作る事もあります。1 回に 3～6 個の卵を産みます。

しかし、チョウゲンボウの生息環境は、開発や農薬使用の影響を受けています。彼らの獲物である小動物や昆虫が減少すると、生活に大きな影響が及ぶため、生息地の保全が課題とされています。その美しい姿と生活様式は、自然保護活動の重要性を訴える象徴ともなっています。

貝塚市内見出川河口 2024 年 12 月 12 日撮影